

## 令和 8 年度第 2 回天童市地域公共交通協議会 会議録

- ・ 日 時

令和 8 年 9 月 2 8 日（月） 1 4 : 0 0 ~ 1 5 : 0 0

- ・ 場 所

天童市役所 5 階会議室

- ・ 出席者

別紙のとおり

- ・ 会議録

1 開 会 生活環境課 並木課長補佐

2 あいさつ 佐藤副会長（荒谷公民館館長）

委員紹介 生活環境課 並木課長補佐

委員 23 名中 22 名出席で会議成立（規約第 8 条第 2 項）

※公務のため、会長は欠席

3 報 告

(1) 天童市地域公共交通計画策定調査業務に係るプロポーザル実施結果について

令和 8 年 6 月 16 日に 4 社参加のもとプロポーザルを実施し、審査の結果、株式会社福山コンサルタントと契約を締結した。委託期間は令和 8 年 6 月 17 日から令和 9 年 3 月 19 日まで。

詳細は資料 1 のとおり。

(2) 地域公共交通計画策定の背景

令和 2 年 11 月の法律改正により、地方公共団体は協議会方式で地域公共交通計画を策定することが努力義務化された。天童市では人口減少、運転手不足、公共交通利用者の減少といった「負のスパイラル」が発生しており、持続可能な公共交通ネットワーク確保のため、本計画の策定が必要である。本計画は「第八次天童市総合計画」などの上位計画や、山形県の地域公共交通計画と整合性を図った個別計画として位置づけられる。

詳細は資料 2 の P.3～P.5 のとおり。

### (3) 各種調査方法について

詳細は資料 2 の P.6～P.15 のとおり。

#### ○学識経験者 福本委員の質問

アンケート配布やインタビュー調査等を通じて、コンサル会社で得た感触や特徴的であると感じたこと、新たな発見があれば教えていただきたい。

#### →福山コンサルタントの回答

これまでにバス利用者実態調査、JR 利用者ヒアリング、関係者ヒアリングを実施済みである。バス利用者数が想定より少なく、回収サンプル数の不足が課題となっており、10 月に実施する学生向けアンケートにてバス利用者を対象に補完することを考えている。

学生を見ると、駅まで送迎してもらっている方が多く見受けられたため、保護者の送迎の負担は大きいと推測される。

交通事業者へのヒアリングでは、「担い手不足」が主要課題として挙げられた。

#### →福本委員の質問

天童市に寄った際に、天童駅前朝の時間帯の状況を観察したところ、非常に送迎が多いと感じた。市内での駅へのアクセスをバスなどの公共交通に転換させることは、難しいのではないかと考えている。人口分布の図面を見ると、人口が分散しており、集約は非常に難しいと思われる。一方で、距離が遠くないため、保護者による送迎でもやむを得ないと考える。むしろ送迎をしたうえで公共交通に乗ってもらえるのであれば、それでよいと考えたところである。

逆に、上記を公共交通で担うとすると、天童市としてかなりの投資が必要となる。特に人手の足りない午前中に運転手を動員してでも「やる」という話であれば良いが、それが市として考えられない話であれば、検討しても仕方がないと思う。この点について市役所としてはどのような認識か。

#### →事務局 佐藤生活環境課長の回答

送迎に自家用車を使って JR を利用する形であるが、市内に JR 駅が 4 つあることから、全員が天童駅に来るという状況ではなく、最寄りの駅への送迎となっている。逆に、天童市の方に来て天童駅で降りた学生をどのように輸送するかという観点も必要になると考えている。駅から天童高校まで約 3 キロ離れているため、自転車で通学している学生に、その区間の公共交通のニーズがあるか聞き取りを行い、行政として検討が必要になるのではないかと考えている。

#### (4) 地域特性、運行状況について

人口：市街化区域に集中し、2036年には約4.9万人まで減少、高齢化率は40%に達すると予測される。通勤・通学ともに約9割が自動車を利用している。

人流：山形市との移動が最も多い。

公共交通：路線バス（山交バス、市営バス）、デマンド交通、イオンモール天童運行バスが運行されている。

観光：観光入込客数はコロナ禍から回復傾向にあり、最多は「わくわくランド（道の駅てんどう）」である。

詳細は資料2のP.16～P.25のとおり。

#### ○福本委員の意見

資料2のP.18のパーソントリップデータの通学目的のものについては、15歳からのデータがあるのであれば、年齢区分を中学生、高校生のように細かく分けていただいた方がよいかと思う。

#### ○山形運輸支局 遠山委員の意見

人口減少が予想される中で、交流人口の拡大が大きなポイントになると思う。新スタジアムの建設もあり、試合だけを考えても1回1万人で年間20試合が開催され、さらにイベント等があれば、かなりの人の移動が予想される。関係者ヒアリングの中で、日常使い以外の移動の足について検討していく必要がないか、現状どのような課題があるかといった点も把握をしていただいた方が、より将来を見据えた計画になるのではないか。

#### ○地方創生推進監 秋保委員の質問

住民懇談会のところで中部地区がないのはなぜか。

#### →事務局 生活環境課 並木補佐の回答

住民懇談会については、会合があるところを事前に調査した上で、声かけを行い、スケジュールを調整した。中部地区を外したわけではなく、13地区すべてを回りきれなかった。事前に社会福祉協議会とも意見交換し、地域の方が積極的に集まっている機会に合わせて、懇談会のスケジュールを組んだところである。

#### →秋保委員の質問

調整した結果であればやむを得ないと思うが、中心市街地における高齢者の足の視点なども取り込めるとよかったと思ったところである。

先ほど福本委員から、これから市役所がどの程度の費用をかけるのかとい

う話があったが、計画策定の最終的な成果として、A案ではランニングコストとイニシャルコストがそれぞれいくら、B案ではどの程度といった数字は示されるのか。

→事務局 佐藤生活環境課長の回答

地域公共交通計画は5年間の計画であり、長期的な見通しを立てにくい形になっている。近い将来の状況の中で、着手できるところから着手していくことを前提にコストも併せて検討し、実現可能性があり、より効率的に実施できる計画を作成予定である。

#### 4 協 議 (座長：佐藤副会長、説明：佐藤生活環境課長) 計画骨子案について(資料2 P.26)

○地方創生推進監 秋保委員の質問

3番の目指す姿、4番の基本的な方針について、将来像は、天童市の総合計画のようなキャッチフレーズ的なものか、それとももう少し具体的なものを想定しているか。

→事務局 佐藤生活環境課長の回答

現時点で十分に内容を詰め切れていない状況であるため、ご了承いただきたい。

→秋保委員の意見

基本的な方針と目標の方にかかるとは思いますが、誰にとってのこの計画なのかという視点が重要である。市民の公共交通の視点に加え、先ほどもあったモンテディオ山形のサポーターや観光客などの視点も含め、対象者ごとにどのような計画にするのか念頭にないといけないのではないかと。調査する際もそのようなことは想定していると思うが、柱立てをする際の参考にしていきたいと思う。

→福本委員の意見

秋保委員の質問・意見は非常に大切なことである。現時点では調査の結果もあまり分からない状況で踏み込んだ話ができず、検討の熟度があまり高くない点はやむを得ないが、市としてどうしたいかがなければ計画は作れないと思っている。市の方針をなるべく早めにお示しをいただきたい。

具体的には、財政負担をできないため公共交通を減らしてでも財政負担を軽減していきたいのか、財政負担がそれほど大きく増えないのであれば、

現状のサービスは維持していきたいのか、あるいは、積極的に財政投入をしてでも、市民がある程度納得いただけるように、今よりも充実させていきたいのか、といった方向性についてである。

また、バス、鉄道、タクシー、ドモスの役割分担や、今後どうしていきたいと考えているのかについては、早期に示していただかないといけない。

現状把握の段階で、本来は上記がなければ調査もできないはずであり、何かしらの方針、「こうしたら良いのではないか」という思いは、担当者もしくは首長にあるはずである。

もし、現段階で大きな方針があれば教えていただきたいし、なければ、早い段階で協議会の委員に共有していただくようお願いしたい。

→事務局 佐藤生活環境課長の回答

1 つの課の考えだけでなく、首長の考えも含め、市としての進むべき大きな方向性をどのような形で持っていくかについては、私どもの思いと首長の思いを融合し、方向性を見出さなければならない。毎回の協議会の結果等については、首長にも報告する予定である。

今後の方向性や進め方について、早めに決定し、皆様にお示ししたい。

→ 全会一致で承認

- 5 その他 スケジュールについて  
詳細は資料2の P.27 のとおり。

- 6 閉 会 生活環境課 並木課長補佐